

考え方を広め、共感してもらい、行動してくれ、人を増やしたい

公益社団法人仙台青年会議所（JCI仙台）は70周年の節目を迎えた。人と人の関係が希薄になってきている時代だからこそ、その活動と役割の大切さがいま、クローズアップされている。

（進行・仙台経済界）



公益社団法人 仙台青年会議所
理事長 菅原 啓太氏

JCI仙台は21年創立70周年を迎え、第70代理事長として菅原啓太氏が率いることになりました。20年、仙台JCOB会会長に就任され、第36代理事長でもある藤崎三郎助氏との対談でJCI仙台に

「とにかく、次につながることをやろうとしました」

藤崎 私が理事長の職をお預か



りしていたのは1987年でちょうど36歳の時でした。当時は、時代としては勢いのある時代だったと思います。そして、仙台を活性化するにはどうしたら良いかという議論の中で、仙台を日本のワシントンにするのはどうだろうという話が出て、そんな関係のシンポジウムを開催したりしましたね。支倉常長を縁に仙台とローマで交流を図り、現地で伊達侍展などにも関わりました。NHKの大河ドラマで独眼竜政宗を放送して仙台に注目が集まっていた年でもありましたが、とにかくその年だけでなく、次につながることをやっていこうという思いでしたね。

菅原 JCI仙台の広報紙「の



1月26日に行われた2021年度新年式典にて

業の目が地方に向き新たなチャンスが来ていると思います。こうした中で、本年度は、若者がいかに希望を持って仙台に住んでくれるか、住み続けてくれるかという事業に力を入れていこうと思っています。

「社会に還元していくことが大切です」

本年度事業は若者に視点を当てた事業のほかに、どのようなものを計画していますか。

菅原 第52回目となる仙台七夕花火祭の開催を計画しています。私も19年に特別委員長をさせていただきましたので、思いもひとしおです。また、第34回国際アカデミーを誘致させていただきました、本年

度は開催年となります。世界80カ国から、次の年の各国のトップになる方に仙台に来てもらい、10日間寝食をともにして、仙台を知っていただくようなプログラムを含めたさまざまな課題に取り組んでいただきます。通訳ボランティアの方々やホームステイなどで仙台の方々とも交流を図っていただきたいと思っていますが、コロナ禍での開催となるため、開催方法を考えております。このほかにも、子どもの育成に関わる事業を計画しております。

藤崎 コロナ禍の中での開催となり大変だと思いますが、期待しています。

JCI仙台会員となることの魅力は何だと思われますか。

藤崎 自分が働く会社ではない

仙台青年会議所70周年・対談



仙台JCOB会
会長 藤崎 三郎助氏

「仙台を良くしていこうという方を増やしていければ」

藤崎 青年会議所会員の役割

は、二つあると思います。一つは、当たり前のことですが、「会社や職業をしっかりとやり、国民の責任として税金を納めること」もう一つは、「住んでみたいと思う街にしていくこと、社会に還元していくこと」が大切だと思います。仙台を盛り上げていきたい、仙台のために。これは現役だけでなく、OBになっても実行すれば良いと思っています。

JCI仙台の会員年齢は、25歳から40歳までと非常に限られています。まずは入会してみ、しっかりと活動してみないと分からないこと、気づかないことが多いです。卒業までにきちんとやったかどうかで、その後の生き方などにも影響しますし、考えてみると当時の方々はよく見てくれていたと思います。青年会議所では、思いがけない勉強ができる良い機会があります。弊社でも、常に社員に入会してもらい、勉強させてもらっています。

菅原 藤崎先輩の当時の会員数に比べると減っていますが、私は、JCI仙台の考え方や行動に共感してもらえる方を増やし、それがビックウエーブとなり、仙台を良くしたいと思う方を増やしていきたいと思っています。